

大町病院を守る会会報

No. 4

2011年2月発行

大町病院を守る会

発行責任者北村喜男

あけましておめでとうございます。今年もがんばりましょう。

大町病院の布きり作業を実施

個人・グループ含めボランティア募集します

ちからをお貸してください

守る会では大町病院での布きりボランティアを募集しています。市民の皆さんに古布の寄付をお願いしたところ市内各地からたくさんの布が寄せられました。改めてご協力に感謝いたします。

そこで、布きりの作業を行います。仕事の内容から皆さんが協力していただける方法で布きりをお願いします。

市民から寄せられた布を約 15Cm 四方の大きさの布に裁断する作業です。

作業方法

参加は個人でもグループでも、長期でも短期(1回)でも歓迎します。病院内での作業は午前9時から11時半までの半日です。参加いただける方は作業室の準備のため事前に病院まで連絡をください。

Aコース・・・家庭にある古布を15Cm四方に切って大町病院へ届ける。

Bコース・・・病院にある古布を家に持って帰り切ったのち、病院へ届ける

Cコース・・・各自の都合のよい日に病院で切る。
現在 月・木曜日に作業中。その他の日に受け入れ可能。

場所 大町病院ボランティア室

Dコース・・・定例布切り グループ、個人で可。
午前9時から11時半まで。大町病院大会議室。

申し込み方法

申し込み、問合せ連絡は大町病院矢口看護部長まで(22-0415)

その他のボランティアも募集中

- ① 1階玄関での案内係(受診受付のお手伝い)午前中
- ② 院内の案内、移動介助(時間単位でも可)午前、午後で、各自の都合で
- ③ 玄関前ロータリーの歩道の雪掃き・雪かき。
- ④ 入院患者の話し相手・・・栗原さんが対応中
申し込み、問合せ連絡は大町病院矢口看護部長まで(22-0415)

ありがとうポスト設置

守る会では地域医療の基幹病院である大町病院を自らの生活や健康もかえりみず、使命感で住民の命を守っていただいている医師に、感謝の気持ちをそのまま伝えるために、ありがとうポストを設置します。当面病院内の各科受付などに設置し、メッセージカードを横に置いて、記入していただきポストへ入れていただくようにします。集まったメッセージは整理し掲示板へ掲示、会報へ掲載のうえ、アルバムにまとめ医師に手渡します。
ありがとうの気持ちを伝えよう。

大町病院の再生のために

市議会主催の学習会で打越勝利氏(三浦市民病院事務長)講演

みんなの知恵と力で市民の健康を守る

12月15日、神奈川県三浦市立病院事務長打越勝利氏を招き市議会主催、市共催で講演会が市役所東大会議室で開催され、市議、市長、職員、市民など約100名が聴講した。



【打越勝利氏の講演要旨】

3年前、水戸市から神奈川県三浦市へ来た。

- ・金融機関で働いていたが、20年ほど前、山下証券が倒産したのを機会に、生き方を考えて退職した。
- ・病院経営は民間病院3年、公営病院3年その後三浦市立病院へ着任した。

三浦市立病院の状況は

- ・病床136床の小病院
- ・医師13人
- ・患者対看護師の比率は10:1(大町と同じ)
- ・三浦病院は建設6年目となる
- ・患者の平均在院日数14日
- ・外来患者数468人/日

全国の病院を取り巻く状況

- ・H17年度982病院中3分の2が赤字
- ・H18年度968病院中721病院が赤字(経常赤字2100億円)

理想の病院経営は「公設公営」が理想だろう

- ・病院は金がかかる。

- ・医師、看護師、コメディカル、市民のトータルな協力が必要
- ・病院は一旦なくすと再生ができない。
- ・銚子市民病院に勤務していた医師、看護師は隣の茨木県へ流出した。
- ・銚子市長復帰したが再生は困難だろう。

私立と公立の違い

- ・公立は外来患者で忙しいが金にならない
- ・入院患者を多くした方が金になるが、現実はそのようにならない。
- ・その他の医業収入は私立の方が多い。
- ・どう増やすかが課題。(健康診断その他・・・本業以外にドックなど)
- ・支出は公立病院のほうが多い
- ・民間は100円のボールペンを60円で買う。(入札制度などでなくせない公立の弱点)
- ・減価償却費も民間より高い。
- ・建物の建築費の高いものを作る。公立病院建設費は私立の2倍となっている。(国などの補助金制度などで)
- ・人件費比率は高い。50%が分水嶺といわれているがそれを超えている



○医療機器のスペックは高い

- ・(予算収益より費用のほうに重点)

・単年度予算の弊害

- 医師が変わると使う医療機器が変わる
- ・大学医局崇拜の弊害・物言えない事務局
- 職員に経営赤字の当事者意識が薄い
- ・患者に命令口調・税金を納める市民が主人公であることを忘れる。(オーナーは市民)
- 10万人当たり医師数全国平均 224.5人・医師は都市に流れる
- ・子供にいい教育をしたい、医師にしたいの思い
- ・奥さんはデパートの地下で(生鮮食料品を)買いたい物をしたいの思い



三浦市民病院の取り組み

- ・ヘリコプターで5から6分で横浜市立大へ
- ・自己完結型から地域完結型へ・受け皿病院へ

市民全員の健康データバンク構想

「三浦アンチエイジングシステム」を柱に、機能分担と地域ネットワーク化し検査を請け負い結果を民間診療所とデータのやり取りができるようにし、生涯的統一的健康管理で市民の医療、福祉、介護を一元管理する。

- ・CTやMRIなどの高度医療機器を活用し民間診療所の撮影受託をする。
- ・糖尿病を例に考えると、予備軍、糖尿病、患者治療に600万円かかる。そうならないための指導、管理で医療費は軽減される。

それまでの考え方を改革

- ・医師がいらないから仕事できない
- ・患者がいらないから仕事できない
- ・自分たちは悪くない。悪いのは国や市役所だ
- ↓
- ・院内研修を増やし、自覚をうながす
- ・健診事業の拡充、ドック商品の開発
- ・検査課のラボ化(町の開業医から仕事を集める)

経費削減

- ・委託契約の見直し56件をまとめる
- ・お金が入ることはできないか
- ・広告募集はあらゆる場所へ出す
- ・ネーミングライツスポンサーの募集
- ・新規事業の立ち上げ
- ・H20年から22年度で6千万円弱の削減
- ・施設管理業務委託の効率化16業務を一本化し、年平均1,500万円年3年間で5,000万円削減

トータルSPDの導入

- ・医薬品・診療材料、日用品にかかわる購入を一元化し、無駄な在庫をなくす
- ・給食業務のアウトソーシング・民間にできるものは民間に任せる
- ・医療職給与の適正化・全適化
- ・看護部門の改革・若い看護師の給与を厚く
- ・技術のレベルアップ
- ・貢献手当の創設

(年間削減予想 6,800万円)

- H19年…5.7億赤字…人件費比率62.5%
- H21年…2千万円赤字…人件費比率61.4%
- H22年…赤字0…人件費比率45.4%

収入増・確保対策

- ・入院セットの導入(肌着や浴衣、オムツのセット販売)・院内感染防ぎ、看護師の対応安全安定迅速簡素化…513万円の削減
- ・オムツ処分費は医療廃棄物で高額だが、オムツを買ってもらうことにより600万円増収。
- ・定額給付金脳ドック
- 検査費用12,000円…検査内容 頭部MPI、MRI仕様。お得なオプション…頸動脈エコー
- ◎地域医療の連携…230万円増
- などにより黒字化を果たした。
- 大事なことは、職員一人一人が他人に任せず病院の改善に取り組む、全員がその気になって一丸となりとりくむことだ。(文責 高橋)

2月6日(日)9時半~3時サン・アルプスで「介護と地域医療」の講演会・シンポジウムが行われます。参加費無料。おにぎり持参で。

寒い中、剪定作業

ありがとうございました

病院の庭がすっきり

かねてから要望があった庭木の剪定作業が12月12日(日)午後1時半より4時にかけて行われました。これは「守る会」が呼びかけて、大町病院の庭木の剪定作業を行ったものです。作業が始まる前に参加者皆さんに北村喜男会長代行から挨拶があり、専門家の菅沢和博さんからの作業に当たっての注意と指示があり作業に取り掛かりました。



挨拶する北村会長

作業には守る会会員、一般市民、牛越事務長、矢口看護部長、宮脇課長はじめ多くの病院職員、市職員など40人弱が脚立や剪定ばさみ、のこぎりなどを持ってボランティア参加しました。

玄関前のロータリー植え込み、入り口の垣根、駐車場の垣根、水路沿いの植木、駐車場のヒマラヤスギ、病棟脇の植栽などを剪定・伐採しました。切り落とした枝のあとかた付けも多くの皆さんの力により終了し、その量は2t ダンプカーで5台分に上りました。



枝の処理で汗を流す



作業風景

大勢の皆さんの協力により当初の予定を上回る広い範囲での作業ができ鬱蒼としていた樹木の剪定ができました。寒い中での作業でしたがきれいになった庭を見てみな満足感を感じていました。

終了に当たり牛越事務長よりお礼のことがありました。終了後病院職員によるお茶の接待がありました。病院の皆さん、小林千恵子さん、高橋澄香さんからお茶菓子と漬物の差し入れがありご馳走になりました。寒い中での皆さんのご協力ありがとうございました。



さっぱりした樹木